

血液型と妊娠について

このリーフレットでは、妊娠中に以下を目的として受診可能な検査について説明します。

- 血液型の確認
- Rh 因子型の確認、および
- 抗体の検出

妊娠中あなたを担当するスタッフは、輸血が必要になった場合のためにあなたの血液型を把握しておく必要があります。また、あなたの Rh 因子の型を確認しておくことも重要です。

Rh 因子型とは

血液型は通常、次の 4 つの型のいずれかになります。

- O 型
- A 型
- B 型
- AB 型

さらに、「Rh 因子」型と呼ばれる別の血液型があります。あなたは Rh プラスまたは Rh マイナスのいずれかになります。たとえば、全体的な血液型は「O 型 Rh プラス」と記載されます。

赤血球抗体とは

抗体とは、あなたの身体が異物と判断したものに対する体内の天然の防御物質です。赤血球は血液中に酸素を運搬します。あなたの血液型とは異なる型の血球が血流に侵入すると、抗体が形成されます。これは、輸血、または妊娠中の赤ちゃんからの侵入で発生します。

赤血球抗体は、あなたの血流を通して赤ちゃんの中に侵入します。これにより、あなたの胎児の血液が損傷する場合があります。これは時々、新生児溶血性疾患 (HDN) と呼ばれる稀な状態を引き起こします。HDN の症状には、黄疸や貧血 (赤血球の欠乏) が含まれます。影響を受けた新生児は通常入院する必要があるため、光線療法 (光線を利用した治療) や時々において輸血を含む治療を受けます。

新生児溶血性疾患 (HDN)は予防できますか？

あなたが Rh マイナスで赤ちゃんが Rh プラスの場合、あなたの身体はこの「異物」である Rh プラス血球を破壊するための抗体を生成する場合があります。これは妊娠中に発生することが時々あり、出産時に発生する可能性はより高くなります。あなたが Rh プラスの場合、この問題は通常発生しません。

HDN を予防するためには、あなたが Rh マイナスで赤ちゃんが Rh プラスの場合、妊娠中および出産後に抗 D 免疫グロブリンの投与を受ける必要があります。この措置により、あなたの身体が Rh 抗体を生成するのを防止し、将来の妊娠における問題発生リスクを軽減できます。

抗 D 免疫グロブリンとは

抗 D 免疫グロブリン (注射投与) は、ドナーから採取される血液から生成される血液製剤です。

抗 D 免疫グロブリンの安全性について

時々において、抗 D 免疫グロブリンはアレルギー反応を引き起こします。この血液製剤の製造方法は非常に厳格に管理されるので、既知のウイルスがドナーからあなたへ通過する危険性は非常に低いものです。

血液型と抗体のスクリーニングを行うメリットについて

妊娠中の早期に血液検査を受けられます。

この検査を受けると、自分の血液型が分かり、Rh プラスか Rh マイナスかも分かります。Rh マイナスであることはあまりありません。人口の約 15% (100 人中 15 人) が Rh マイナスです。

この検査は、抗体についても調べます。これらについて把握しておくことは、あなたに輸血が必要である場合、安全に行うことができるので重要です。稀ですが、先に説明したとおり、血液中に存在する抗体は、赤ちゃんに影響するリスクをもたらす場合があります。このような場合、あなたとあなたの赤ちゃんは専門家の治療を受けることができます。この血液検査は、妊娠の 28 週近辺で、もう一度行われます。

血液型と抗体のスクリーニングを行うデメリットについて

スクリーニングは簡単な血液検査です。唯一のリスクは、どのような血液検査でもそれを行う場合と同じものになります。

検査を受ける場所について

担当の助産婦が検査を受けることができる場所をお知らせします。

結果

検査結果は秘密扱いされますか？

NHS はすべての検査結果を秘密扱いで保管します。病院の方針は、何人があなたの検査結果を見る権利を持つかにより異なります。担当の助産婦が現地の対応についてあなたに説明します。

自分のスクリーニング検査の結果はどのように入手できますか？

担当の助産婦が、いつどのように検査結果が提供されるかお知らせします。採血後 3 週間以内に検査結果を受け取るはずですが。

血液型と赤血球抗体に関する診断検査

血液型と赤血球抗体のスクリーニング検査は、非常に正確に行われます。問題が疑われるまたは検出された場合は、再検査を受ける必要がある場合があります。

自分が Rh マイナス型であることを知っている場合

次の症状が出た場合は、至急担当の助産婦または医師に連絡して、あなたが Rh マイナスであることを知らせてください。

- 12 週目以降に膣から出血した
- 12 週目以降に流産した、または
- 腹部に負傷した (自動車事故でのシートベルトで負傷する、または転倒するなど)

このような事態が生じた場合は、あなたの身体は抗体の産生を開始し、抗 D 免疫グロブリンが必要になります。

抗 D 免疫グロブリンの投与を受けなければならない理由

抗体の生成リスクを軽減するために、抗 D 免疫グロブリンの投与を受ける必要があります。また、次の状況にある場合も、抗 D 免疫グロブリンを投与される必要があります。

- 羊水穿刺を受けた。
- 絨毛膜のサンプリングを受けた。
- 出産時期である (通常、胎児が Rh プラスである場合のみ)。
- 子宮外妊娠をしている。

あなたを担当する医療者には、必ずあなたが Rh マイナスであることを伝えてください。

彼らはあなたの妊娠中を通して、抗体値を調べます。また、問題を調べて予防するために、妊娠中に抗 D 免疫グロブリンの投与を受ける場合もあります。

その他の情報

担当の助産婦または病院の医師（産科医）から、Rh マイナスであることについて詳しい情報を得ることができます。

妊娠における血液型と赤血球の抗体に関するリーフレット次のウェブサイトにて取得できます。

http://hospital.blood.co.uk/library/patient_information_leaflets/leaflets/index.asp

（2009年9月22日より）

© Copyright 2010 Public Health Wales NHS Trust. All rights reserved. 著作権の所有者の許可なく本書の一部または全体を複製することを厳禁します。

www.antenatalscreening.org

2010年4月

BG 第9版